

重点8 就学前（幼稚園）教育の充実

1 指導方法の工夫改善

ねらい

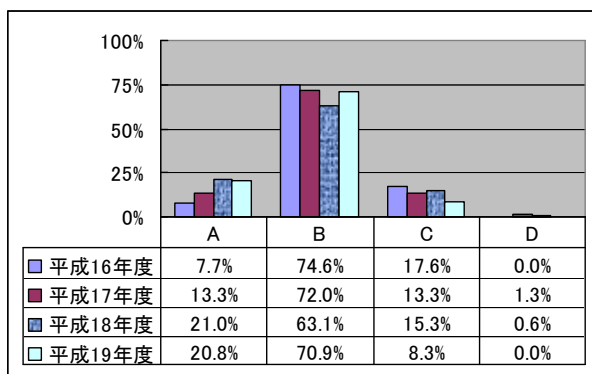
幼稚園では、幼児の欲求や自発性、好奇心などを重視した遊びや体験を通した総合的な指導によって、人間形成の基礎となる豊かな心情や想像力、ものごとに自分からかかわろうとする意欲、健全な生活を営むために必要な態度の基礎を培うことをねらっています。

そのために、一人一人の幼児の特性に応じた指導をきめ細かく進めるとともに、道徳性の芽生えを培う活動や身近な人や環境とのかかわりを重視した保育のダイナミックな展開に努めています。

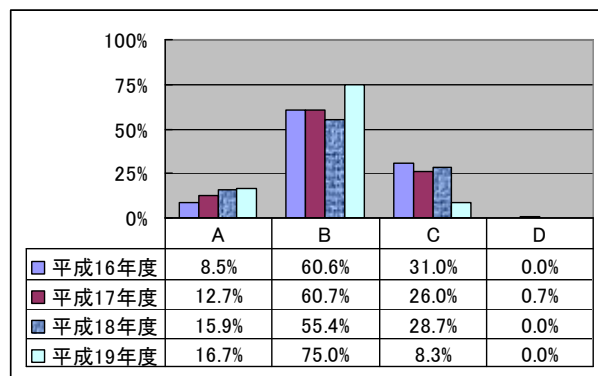
現状

○ 平成19年度の市内教職員のアンケート結果（24園）

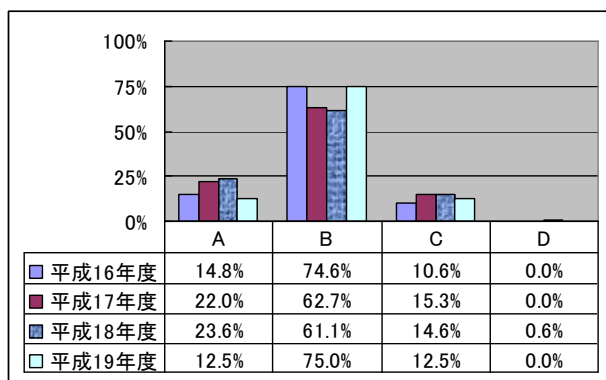
Q：一人一人の幼児の特性に応じた指導の工夫を行ったか。



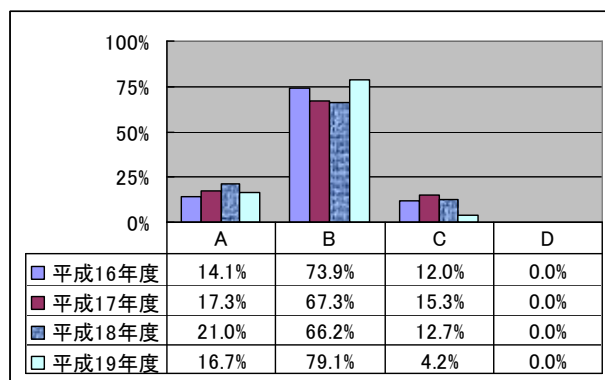
Q：幼児期にふさわしい生活を展開できる環境構成の工夫を行ったか。



Q：身近な人や環境とのかかわりを重視した保育を行ったか。



Q：道徳性の芽生えを培うための指導を行ったか。



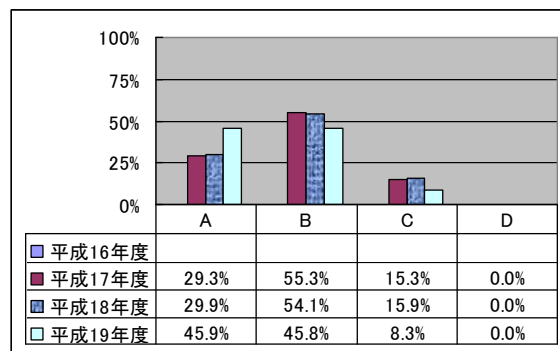
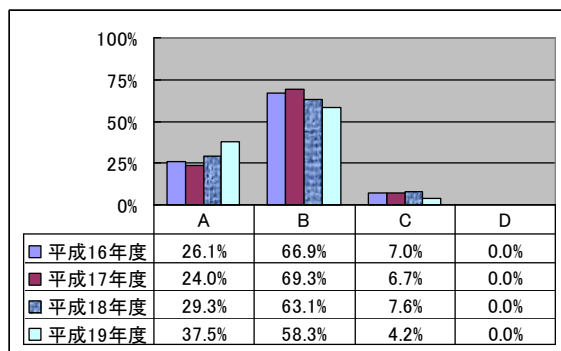
【「A」：十分 「B」：おおむね十分 「C」：やや不十分 「D」：不十分】

- 一人一人の幼児の特性に応じた指導の工夫を行ったかについては、十分・おおむね十分との回答が平成18年度と比べ7.6ポイント増えています。また、やや不十分の項目が7ポイント減少していることから、指導方法の工夫や改善に向けた取組が進んでいるといえます。
- 環境構成については十分・おおむね十分という教師が平成18年度より20.4ポイント増加しており、環境の工夫の大切さについての理解が進んでいることがうかがえます。

第3章 子どもたちを指導する上で特に重要と考えるもの

- 身近な人や環境とのかかわりを重視した保育では、平成19年度では十分・おおむね十分が2.8ポイント増えています。これは、共に生きる力の育成にむけ、同年齢・異年齢・地域の人など身近な人とのかかわりに重点をおいた保育や、飼育栽培・園外保育など自然にふれる機会を積極的に取り入れるなどの工夫をしてきた成果と言えます。
- 道徳性の芽生えを培うための指導については、平成19年度では、95.8%の教師が十分・おおむね十分と答えています。このことから、道徳性の指導の重要性を意識して保育にあたっていることがわかります。

Q：基本的な生活習慣、社会生活上のルールなどの定着を図ったか。 Q：健康・体力向上のための指導を行ったか。



【「A」：十分 「B」：おおむね十分 「C」：やや不十分 「D」：不十分】

- 基本的な生活習慣、社会生活上のルールについては、平成16年度から92%以上が十分・おおむね十分としており、定着を図る取組が進んでいることがわかります。
- 健康・体力向上のための指導を行ったかについては、十分と答えた教師が16ポイント増となり、取組が強化されつつあることがわかります。

課題（今後の方向）

- 平成19年度は、一人一人の幼児の特性に応じた指導の工夫及び環境構成の工夫について等、改善に向けた取組が進められました。今後も、幼児の活動がそれぞれの発達に意味のあるものとなるように再構成していく取組の充実を図ることが必要です。それには、園内研修等を工夫・充実させ、全職員が、幼児の成長のために具体的な課題をもって取り組むようにすることが大切です。
- 健康で安全な生活習慣や態度の育成及び戸外遊びや運動遊びの充実など、心身が共にたくましく育つよう取組を一層進めます。
- 教師の専門性を一層高め、遊びの中で子ども同士がかかわりあう機会を大切に、集団のルール等を個々の発達に応じて指導することや、集団の中で個が発揮できるよう、また、遊びの充実感を味わえるようにする必要があります。